石巻市立湊小学校　　令和７年５月２日（木）

学 校 安 全 便 り

第１号　担当：佐藤

この「学校安全便り」では、生活安全・災害安全・交通安全の3つの教育活動についてお知らせします。御家庭や地域と連携しながら安全・安心な学校づくりを進めていきます。お読みいただき、御理解、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

湊小学校は SPS（セーフティープロモーションスクール）です!!

セーフティープロモーションスクールとは、安全教育の推進に取り組む学校のことです。令和 2 年度から大阪教育大学・学校安全推進センターから認証をいただき、本年度で 6 年目となります。

3年毎に重点指導分野を変えています。令和 5 年度から本年度まで「生活安全」が重点分野です。

※令和2年度～4年度までは災害安全でした。

「生活安全」

生活安全は、「事件や事故から身を守り安全に生活すること」、「危険を予測し、回避する力を身に付けること」、「簡単なけがの手当ができること」などが目的です。

「けがの予防」は生活安全の取組の一つです。けがによる保健室来室者数ですが、令和 6 年度は年間約 600 人でしたが昨年度は 400 人以下になりました。この来室者数は子どもたちが安全に気を付けて生活できたかどうか一つの目安となります。

外で元気に遊べば、当然けがをすることもあります。元気に遊んだ証拠ともいえるけがを減らすのではなく、不注意や悪ふざけによる教室や廊下でのけがを減らすことに力を入れ、来室者数の目標を400人以下と設定しました。

けが（打撲、擦り傷、切り傷　等）による保健室来室者数

令和5年度	令和6年度	令和7年度
605 人	371 人	目標：400 人以下

4 月の状況（けがによる保健室来室者数）

令和5年4月	令和6年4月	令和7年4月
105 人 😢	53人　☺	35人　😁

ここは課題！・・・同様のけがを繰り返さないように取り組みます。

▲　トイレでふざけている時に児童 A が個室の扉を閉めた。その際に児童 B の左手小指が扉に挟まってしまい痛めた。⇒　扉、ドアの開け閉めによるけがの危険性について指導しました。

▲　口論となり児童 C が児童 D の服（胸の部分）をつかんだ。その反動で、児童 D は廊下のフックに後頭部を殴打した。　⇒　気持ちのコントロールの仕方や大事故につながる可能性について指導しました。

▲　児童 G が男子トイレの窓側の手すりを触っていた時に、金属の手すりの裏（見えない部分）がめくれており、手の平側の親指の付け根を切った。 ⇒　児童が触れる可能性がある部分（全ての手すり、机、ロッカー等）に気を付けて安全点検を実施しました。

「交通安全」

交通安全教室（4／16）

低学年・中学年は、湊交番の警察官の方や石巻市交通指導隊の方の協力をいただきながら、通学路を歩く際に気を付けることや道路横断の仕方を学びました。

高学年は事故事例や自転車の安全な乗り方について視聴覚教材を見て学びました。また、湊交番所長さんから運転をする際に注意すべき点についてお話をいただきました。

「交番所長さんのお話から」

・「自転車に乗る時は自転車の左側から乗ること」
　⇒車道側に立つことは危険です！
・「自転車に乗る時にはヘルメットを着用すること」
　⇒道路交通法や湊小学校の生活のきまりを確認！
・「自転車を運転する人は被害者にも、加害者にもなること」⇒ぜひ、任意保険の加入を！
・「自転車の点検をきちんと行うこと」
　⇒ブレーキ、タイヤ、ライト、ベル　等

「災害安全」

地震・津波・校舎火災想定　高台避難訓練（4／22）

「震度6強の地震」「大津波警報」「理科室からの火災」が連続して起こるという想定で実施しました。各教室での1次避難、屋上へ2次避難、校舎火災により古舘山に3次避難をするという流れで行いました。

本年度、新たに取り入れた想定は校舎火災です。最新の津波浸水深の想定は6．4mであり、3階より上に避難すればよいことになります。しかし、門脇小学校の例のように校舎火災が発生した場合、どのように避難するかが課題です。

本校の北側には牧山がありますが、急斜面かつ校舎からの距離があるため、屋上から直接移動することはできせん。そのため古舘山に避難することにしています。

心配な点は津波到達までの時間です。最新の津波到達予想時間は地震発生から約50分と言われています。教室から屋上、屋上から古舘山まで、全員が移動するのに何分かかるかということも訓練のポイントの一つでした。

結果は地震発生から古舘山避難完了までの避難に要した時間は26分間でした。（地震発生は10時40分、古舘山避難完了が11時6分）　この時間であれば、避難が可能です。

しかし、校舎火災が起きるかどうか、どの時点で起きるかは予想できません。その時の状況から判断することになりますが、今後、最善の避難方法を保護者の皆様と一緒に考えていきたいと思います。